

放射線に関する Q & A

放射線は目に見えません。しかし正しく認識し、対処することで過剰な心配や、無用な被ばくを避けることができます。放射能対策室では定期的に、この Q & A を連載していきます。

監修＝相馬市健康対策
専門部会委員、東京大
学医科学研究所
坪倉正治
作成＝放射能対策室



Q 自然放射線量は地域により差があるのですか？

A 自然放射線とは、原発事故が起きる前から自然界にもともと存在している放射線です。事故以前から、我々の暮らす日常環境には放射線が存在し、大気中のラドンや大地のウランなどから日本では年間平均で約 1.5mSv（世界平均は年間 2.4mSv）の自然放射線量の影響を受けています。

この自然放射線量は、日本国内で場所によって異なります。花こう岩などの放射性物質を含む岩石の割合が場所により異なるからです。全体的には西日本が東日本より高い傾向にあり、例えば国内では高めの岐阜県は低めの神奈川県に比べて年間 0.3mSv 程度の差があります。

日本国内ではこの程度の差ですが、海外では場所によってその差は大きく、フィンランドでは年間平均 7.5mSv 程度、フランスやドイツは年間約 3mSv 程度と場所により年間数 mSv 程度のばらつきが存在することが知られています。そして、その放射線量の差によって癌などのリスクが増えるという報告はありません。

今現在相馬市の小児を対象としたガラスバッジの検査結果では、年間の追加被ばく線量はどこに居住されている方でもほとんどが 1mSv 以下であり、上述のような住む場所による被ばく量の変化の中におさまっていることが分かっています。現在、相馬市で計測されている日常生活での被ばく量は、影響があるといわれるような線量を大きく下回っていますが、市民の安心、安全のためこれからも継続的な検査と情報公開を行っていきます。

Q 市内の空間放射線量率はどのように計測しているのですか？

A 主に 3 種類の方法で、市内の空間放射線量率を把握しています。

《68カ所リアルタイムモニタリング》

国は、市内 68カ所に、モニタリングポストやリ

アルタイム線量測定システムを設置し、その 10 分ごとの測定値を原子力規制委員会のホームページで公開しています。

(<http://radioactivity.nsr.go.jp/map/ja/area.html>)

《500mメッシュ調査》

市は、年 1 回、市内全域を 500m 四方に区切り、地表面が土の場所と舗装された場所の地上 1m の空間放射線量率を測定しています。平成 25 年度は、土の場所を 573カ所、舗装してある場所を 472カ所、測定しました。500mメッシュの情報は市ホームページに掲載しています。(http://www.city.soma.fukushima.jp/housyasen/kuukan/mesh_2013.html)

《自動車走行サーベイ》

市と原子力規制庁との協働により、高精度の放射線検出器を搭載した乗用車で道路を走行しながら道路上の空間線量率と GPS による位置情報を連続的に収集して、空間線量率の分布状況を地図上に表示したものを、県災害対策本部のホームページで公開しています。(<http://www.pref.fukushima.jp/j/soukoukekka.htm>)

その他にも、仮置場や焼却炉などの空間放射線量の測定も実施しています。仮置場などの測定値は毎月広報そうま 15 日号に掲載しています。

また、市民の皆さんの身近な空間線量率の測定に利用していただくため、市は簡易型放射線測定器（メリディアン社製「Pripyat」）の貸出も行っています。積極的にご利用ください。



市が貸し出す簡易型放射線測定器

出典および参考資料：相馬市ホームページ、環境省「放射線の影響をどう考えればいいのか」

●問い合わせ先 放射能対策室 ☎ 37-2270